



12月全校朝会 … <重伝建地区>の話

12月2日(金)の全校朝会(校長講話)で、「重伝建地区」について話をしました。

皆さんは、北小地域の中に<桐生新町重要伝統的建造物群保存地区>というのがあるのを知っていますか？

長い名称なので省略して<重伝建地区>と言われることが多いのですが、<重伝建地区>という言葉を見たり聞いたことがある人は、ちょっと手を挙げてみてください。はい、手を下ろしていいですよ。

今日は、この<桐生新町重要伝統的建造物群保存地区>について話をしたいと思います。

桐生の歴史は、今から約400年以上前の天正19年(1591年)から慶長11年(1601年)の11年間に、徳川家康の命令で<桐生新町>が造られたことによってスタートしました。

<桐生新町>の範囲というのは、皆さんがよく知っている天満宮から、(最初に桐生学校があった)浄運寺の所までで、現在の町名で言うと、本町通りの両側にある本町1・2・3・4・5・6丁目と北小のすぐ裏にある横山町が<桐生新町>の範囲になっています。

桐生新町を造る担当者だった大野八右衛門(おおの はちえもん)さんという人は、「桐生新町を、北側は天満宮の天神様が守り、南側は浄運寺の仏様が守る町にする」という町造りの計画を立てて、まず、その当時はもっと北の方(天神町3丁目)にあった天満宮を今の場所に引っ越しをさせて、天満宮をスタート地点、浄運寺をゴール地点として、その間に、当時としてはたいへん幅の広い9mの道を一直線に通して(これが現在の本町通りですね)、その両側に短冊状に土地を区切って家やお店を建てさせて、通りから見える町並みを綺麗に整えていきました。

そして、近くの村から、「桐生新町に引っ越してきてもいいよ」という人達を募集するなどして人口を増やし、計画的に町造りを行っていきました。

大野八右衛門さんは、現在、たちばな保育園がある高い場所に自分の家を建てて、いつも<桐生新町>を見渡しながらか町造りにあたっていたということです。

その<桐生新町>の中でも、特に本町1丁目と本町2丁目、天神町1丁目の一部には、現在でも江戸時代の土地の区切り方(敷地割り)の跡がよく残されています。

また、「桐生は日本の機どころ」と上毛カルタにも詠われているように、絹織物関係の蔵や町屋、ノコギリ屋根の工場など、江戸時代の終わりから昭和時代の初めにかけての歴史的な建造物が多く残っていることから、江戸時代から絹織物業を中心に発展してきた桐生を象徴する地区として、平成24年1月17日に、文化庁から<重要伝統的建造物群保存地区(織物を造る町)>として指定されました。

<桐生新町>が<重伝建地区>になったのは、全国で94番目、関東地方では5番目です。

関東地方では、埼玉県川越市の蔵の町、栃木県栃木市の日光例幣使街道に沿った町並みが有名です。

そして、群馬県内では吾妻郡中之条町六合赤岩の養蚕集落に次ぐ2番目ということです。

養蚕集落というのは、お蚕(オカイコ)を飼って、その繭から生糸(絹)を作ることを仕事にしている農家が集まっている所で、この赤岩集落では、養蚕が盛んであった頃の養蚕農家の建物や神社やお堂など、“昔ながらの町並み”が保存されています。

<桐生新町重伝建地区>では、180の家や蔵など、173の灯籠や祠など、8本の樹

木が“歴史的な町並み”として保存や整備の対象になっていますが、〈重伝建地区〉としての環境を保っていくために、特に、本町通りから見える家・倉庫・駐車場・塀・門などの新築・建替・修理を行う時には、「歴史的な町並みの景観」に影響を与えるような変更にならないように、事前に届け出を行い、形（デザイン）や色について許可を受けてからすることになっていますし、本町通りから見える場所に、ソーラーパネル・エアコンの室外機・エコキュートなどの現代的な設備を置くこともできなくなっています。

それくらい、「歴史的な町並みの景観」を守っていくというのは、たいへんなことなんです。

また、防災計画に基づいた防災訓練・避難訓練も行うことになっています。

去年の『学校だより』でも紹介しましたが、今年度もあさって12月4日の日曜日に、北小を避難場所として防災避難訓練が行われます。

皆さんも参加できますので、お家の人の都合がつくようでしたら、ぜひ参加してみてください。

最後になりますが、皆さんが住んでいる北小地域には、織物の町桐生市の歴史を今に伝えている〈桐生新町重要伝統的建造物群保存地区〉という、目に見える市民の財産（宝物）があるということ、覚えておいて欲しいと思います。

〈かかあ天下-ぐんまの絹物語-in桐生〉…“子ども記者”の活動

11月12日(土)の10:00~14:00に、あーとほーる銚座などを会場にして実施された日本遺産認定記念イベント〈かかあ天下-ぐんまの絹物語-in桐生〉の一環として、市内の小学生12人(1班:北小2名、川内小2名、2班:西小2名、南小2名、3班:東小4名)が“子ども記者”になって、市内の日本遺産構成文化財6カ所取材し、『子どもガイドマップ』を制作する取組が行われ、北小からは6年生の逸口ひおりさんと星口絢さんが参加しました。

1班は「白瀧神社」「桐生新町重要伝統的建造物群保存地区(有鄰館)」取材し、2班は「絹撚記念館」「桐生織物記念館」、3班は「織物参考館=紫」「後藤織物」取材しました。取材方法や記事の作成方法は、プロの記者が同行して指導してくれました。

また、“子ども記者”の活動の様子は、『上毛新聞』や『子ども新聞:週間風っ子』で報道され、作成した記事は、『地元の子どもが取材した桐生の日本遺産マップ』と『歴史ある町並みを楽しもう!桐生新町マップ』になりました。



【桐生新町マップ】



【桐生の日本遺産マップ】

※ 写真等については、上毛新聞社の許可を得てあります。

〈逸口ひおりさん〉

桐生の成り立ちに徳川家康が関わっていたと聞き、驚きました。身近な建物や地域取材して、改めて魅力に気付きました。もっと桐生を知り、これからは自分たちが歴史ある町を支えていきたいと思えます。

〈星口絢さん〉

普段使っている通学路が重伝建地区だと初めて知りました。当時の建物がしっかりと残っていることも驚きです。記者としていろいろな人に話を聞く中で、住んでいても知らないことがたくさんあると気付きました。

